

支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

壬生川駅前から旅の安全を祈って ～地元自治会が飾る大しめ縄～

壬生川駅前広場にあるバス停内に、しめ縄が飾られているのをご存知でしょうか。

平成23年度に駅前広場が新しくなった時、三津屋駅前自治会（佐伯貴司会長）で、地元として何かできないかと議論を重ねた結果、木造で新装となったバス待合所内に、交通安全を祈願した大しめ縄を飾ろうということになりました。



地元自治会によるしめ縄づくり 最初の年は試行錯誤の線

り返して、満足のいくものにはならなかったとのことですが、3年目となる今回は、会員男女10人が、わら11束を用意して、長さ2m50cm、太さ30cmのものが出来上がりました。

この駅前広場では、東予秋祭りの統一運行が行われるほか、年末にはクリスマスイルミネーションが飾られるなど、地元にとって観光や交通の中心としてシンボリック的存在です。木造のバス停にお似合いの大しめ縄には、地元の人たちから乗降客の皆さんへの旅の安全を願う温かい気持ちが込められているのです。



壬生川駅前バス停のしめ縄

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

故・佐伯勇氏旧邸宅を訪ねて ～郷土が生んだ偉人の足跡をたどる～

佐伯勇氏（丹原町長野出身・西条市名誉市民）は、近畿日本鉄道の社長、会長を歴任し、路線延長や新型車両の導入、百貨店や旅行代理店経営なども手がけ、



故・佐伯勇氏

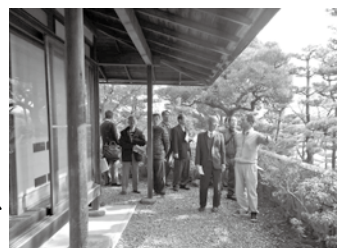
「近鉄中興の祖」として知られる実業家です。またプロ野球の近鉄球団オーナーとしてパ・リーグの繁栄に尽力する一方、次代を担う故郷の若者のためにと佐伯記念育英会を設立。育英事業により支援を受けた方はこれまで180人以上にのぼり、現在も31人の学生が給

付を受けています。

そんな偉大な氏の足跡をたどろうと、昨年12月、西条市連合自治会丹原支部の皆さんが奈良市にある旧邸宅を訪れました。邸宅は氏が過ごした当時のまま残されており、広大な屋敷・庭園を散策しながら、生前の暮らしに思いを巡らせ、故人をしのびました。

丹原総合支所隣にある佐伯記念館・郷土資料館では氏の遺品、遺作等の資料を展示し、顕彰を行っています。

皆さんも一度来館され、郷土が生んだ偉人の遺徳に触れてみませんか。



連合自治会による旧佐伯邸宅訪問

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

陸軍中将・黒川通軌（みちのり） ～小松ゆかりの幕末の志士～

小松藩では幕末に「勤王の志士」を輩出しており、「禁門の変」で奮闘した田岡俊三郎等が有名ですが、勲一等旭日大綬章を受章、明治20(1887)年に男爵を叙爵し、華族となる黒川通軌中将もその一人です。

近藤篤山先生の長子・南海先生に学び、田岡などとともに幕末の国事に奔走した後、新政府に出仕、明治6年には陸軍大佐に補されます。薩長土肥が要職を占めていた当時は、異例の人事で、彼の有能さを物語っています。西南の役でも、第2旅団等を率い、九州各地を転戦した記録が数多く残っています。

その功績で陸軍少将に昇進し、明治18年(1885)には

中将となります。その後、名古屋鎮台司令官、第3、第4師団長などを経て、明治26(1893)年、東宮武官長（皇太子の軍務について奉仕する職）兼東宮大夫に就任し、皇太子（後の大正天皇）のそばに仕えます。この要職を約4年間勤め、病気のため休職・帰郷し、明治36(1903)年に小松で没しました。養生ケ丘にある墓前には、大正天皇から下賜された石灯笼一対があります。黒川通軌は、篤山先生を祖とする小松の学風が育てた偉人の一人です。



養生ケ丘にある黒川通軌の墓